

佳作

僕のエネルギーの源

秋田県湯沢市立湯沢北中学校

2年 藤岡 煌甫

「富士山に登ってみない？」

突然の母の誘いに僕は驚きました。

母はチャレンジ精神がある人です。今まで母から誘われて僕は何度か登山をした経験があります。しかし、今回はさすがにためらいがありました。それというのも富士山は日本一高い山だからです。これまで富士山のような高い山に登ったことがない僕はすぐに返事ができませんでした。それでも、心の隅で「日本一高い富士山を制覇してみたい」という気持ちもあり、母の誘いに思い切って僕は応じました。

しかし、そうはいっても、すぐに富士山に登れるわけではありません。僕は今までの経験から登山は体力と精神力が必要であることが十分分かっていました。そこで、夏休みに僕は母と一緒に毎週のように登山に出かけました。また、母が本格的な登山用具も準備してくれたので、富士登山の決意が固まりました。

富士登山の1週間前、母と僕は地元の鳥海山に登りました。鳥海山は僕が通っている学校からも見える美しい形をした山です。その優美な姿から地元では「出羽富士」とも呼ばれています。いつも目にしている鳥海山ですが、僕にとっては近くて遠い存在の山でした。

その鳥海山に今までの登山経験を生かして、僕たち親子はチャレンジしました。登山中は厳しいものがありましたが、登頂に成功すると、頂上からの絶景が僕に自信を与えてくれました。鳥海山へのアタックは、富士登山に向けての貴重な経験となりました。

そしていよいよ迎えた富士登山の日。僕は少し緊張していました。富士山は1日で登るのは危険な山であるからです。今まで登ってきた山で2日がかりの登山はありませんでした。どれほど険しい山なのだろう――。美しい姿の富士山に僕は恐れを感じました。

僕たち親子は富士登山に向け、前日、山小屋に泊まり、未明から山に登ることにしました。

山小屋に行く前、僕たちは富士山の麓の町を訪れ、富士山の歴史や文化を学びました。自分たちが登る山について知っておくことは大切だと思ったからです。そして夕方に僕たちは山小屋に到着しました。山小屋の標高は既に鳥海山を超えていました。夕食をとり、少し散歩をして、静かな空間で気持ちを落ち

着かせ、布団に入りました。

翌日、深夜に目を覚ましました。慣れない時間でしたが、準備して山小屋を出発しました。体調は万全とは言い難い状態でしたが、登山道から見える街の夜景や星空が僕の心を癒してくれました。

2時間ほど歩くと、日の出の時間になりました。少しずつ昇る太陽、どんどん明るくなってゆく空。1日の始まりを感じさせる紅色。日本一の山、富士山でのご来光は特別なものでした。僕はたった数時間で人生で見る絶景を全て見てしまったように感じました。そして、その景色は僕の登山意欲を高めてくれました。朝の光に包まれながら、僕たちは登山を再開しました。

しかし、富士山はそうそう簡単に僕たちを山頂まで招待してくれませんでした。山頂まで残り半分を過ぎると、傾斜はどんどん急になり、酸素も薄くなってきました。僕たち親子は高頻度で休憩をとるようになりました。僕は登山の厳しさを思い知りました。ですが、ここまで来たら「やり切るしかない」と思い、気力で登り続けました。後から来た登山者にどんどん追い越されましたが、前へ前へ気持ちを押し進めながらひたすら頂上を目指しました。

登山開始から約7時間。僕たちは山頂に到着しました。僕は疲れ果ててしまい、そこで日本一優雅な昼寝をしました。とても気持ちがよかったです。母の話では、外国人の登山者から笑われていたそうです。しかし、それも大切な思い出になりました。こうして人生史上最大の挑戦は、大成功に終わりました。

今でも時々、富士山を登ったことを思い出すことがあります。この経験は僕にいろいろなことを教えてくれました。それは、自然の美しさ、大自然の中では人間はちっぽけな存在であることです。また、それと同時に、苦しさに耐える力、人間力とは何か、についても教えてもらえたように思います。だから、富士登山の経験は、僕にとって心に永遠のエネルギーを与えてくれる存在となった、といえます。この後もこの「エネルギー」を基に、いろいろなことに挑戦し、人間力をつけ、自分を高めていきたいと思います。

僕の挑戦は未来に向かって、この後も続きます。